

北星学園大学

後援会だより

VOL.109

発行日 2012年6月1日
発行者 北星学園大学
後援会事務局
札幌市厚別区大谷地西2
丁目3番1号 〒004-8631
電話(011)891-2731
印刷(社福)北海道リハビリ



開学五十周年に向けて

学長事務取扱 田村 信一

新年度が始まりましたが、今のところ順調にスタートしています。新入生も予定通りの人数を確保することができました。チャペルでは東日本大震災の被災地にボランティアに行った学生たちの報告会が行われています。ボランティア派遣の補助をいただいた後援会の皆様には、厚く感謝申し上げます。学生たちが目にした被害の衝撃と、それにとまどいながらも交流した現地の人々の表情によって、ボランティア派遣を通じてわれわれが被災地とつながっていることを実感しているところです。

さて本年度は、大学開学五十周年を迎える記念すべき節目の年です。本学は一九六二年、文学部英文学科・社会福祉学科各定員五十名というまことに小さな大学として発足しました。次いで一九六五年には、経済学部経済学科が開設され、その

の後一九八七年には経済学部を経営情報学科が併設されるとともに、一九九六年には、福祉計画学科・福祉臨床学科・福祉心理学科の三学科を擁する社会福祉学部が誕生しました。さらに二〇〇二年、文学部に心理・応用コミュニケーション学科、経済学部を経済法学科が増設され、現在の三学部八学科体制となりました。発足当時わずか一〇〇人だった在学生は、今日、短期大学部を合わせて四、〇〇〇名を超える大きな大学に成長しました。

ご承知のように本学は、開学以来キリスト教主義の教育理念を掲げて学生を社会に送り出してきました。「見識を備え責任を自覚し、社会に貢献する独立人を養成すること」が本学の教育目標です。昨年の東日本大震災以降、私は、社会に貢献する独立人の養成こそ今日の日本にもつ

とも必要とされているのではないかと、痛切に感じています。特に福島第一原子力発電所の未曾有の災害において露呈された危機管理の失敗は、専門的知識の持ち主が内向きの利害にとらわれ、社会的感覚と正義感を欠如していたことの結果にほかなりません。日本の社会にしばしば見られる組織の利害を安易に優先させてしまう傾向とは、人間の独立性の脆弱さを示すものです。最近ではさらに、オリンピックの粉飾決算事件、AIG投資顧問による厚生年金基金損失なども同じ性格のものでした。五十周年を機に本学の教育理念を改めてかみしめたいと思います。

今年度は五十周年を記念する講演会、祝賀会、公開講座などの様々な行事が予定されています。ぜひ皆様、ご参加くださるようお願いいたします。こうした行事を通じてわれわれは、来るべき一〇〇周年に向けて再出発する決意です。



学生生活

後援会会長 深澤 秀則

日本全国で、大学、短期大学は総計で一、九〇〇校ちかくあるとのことですが、その中で、「世にあつて星のように輝き」の建学理念のもとで一二五年の歴史と伝統を脈々と継承している北星学園の大学、短期大学部に見事合格し、入学した、大学院、大学、短期大学部の新入生一、一〇〇余名の皆さん、ご入学おめでとうございませう。

皆さんの入学式に参列させていたいただきましたが、一九六二年に北星女子中高校旧校舎(大変、趣のある木造建てでした)の講堂で挙行された、大学第一回入学式の入学者数は、新入学生一〇〇名弱、編入学生三十名の計一三〇名弱でした。大学開学以来五十年の歴史を経たとはいえ隔世

の感がすると共に嬉しい限りです。日本の根底を揺るがしかねない東日本大震災が起き、想像を絶する未曾有の被害を受け、加えて福島原発の放射能漏れ等、先行き不透明な社会状況のなかで、厳しい勉強に明け暮れた受験生時代を終えた皆さんは、今、入学した喜びと、高校時代の様々な規制からの解放と相まって、爽やかな笑顔で、北星学園のシンボルであり、校花でもあるライラックが咲き乱れているキャンパスで、様々な思いや期待を胸に抱きながら、良き友との出会いや、学業、サークル活動等で、四年間、二年間の学生生活を始めている時期でしょう。大学生、短大生になると、一般的



後援会とは？

北星学園大学後援会は、本学在学学生のご父母全員と、本学を卒業された方のご父母ならびに本学の同窓生を正会員として構成されており、設立以来今年で28年目になります。

本会の目的は、北星学園大学における教育、研究活動の充実と発展に寄与することであり、「北星学園大学のサポーター」としての活動を行っております。その一例として、図書館への本・書架の寄贈、先生方の学術出版補助、国際交流経費補助、学術講演会や学会に対する補助などを行い、学生各種活動補助については、全国大会に出場する学生に対する補助や学生の就職活動支援、就職セミナー開催、大学祭への援助、奨学金補助、サークル活動で使う器具等の購入などを行っています。

これらの活動の他に、本会は「北星学園大学」とご父母とを結びパイプ役として、毎年地区別父母懇談会を開催しており、大学の教職員による本学の教育方針やカリキュラムについての説明、個別に学生の修学状況等について面談を行っています。地区別の父母懇談会は、北海道内7会場(札幌・函館・苫小牧・北見・旭川・帯広・釧路)で開催しております。後援会が開催する各行事は、ご父母の皆様が北星学園大学について知る良い機会となっておりますので、多くの会員の皆様のご出席をお待ちしております。

なお、『後援会だより』は年4回発行し、大学の情報を皆様のお手元にお届けいたします。また、後援会ホームページでも過去のものがご覧になれますので、ご高覧いただければ幸いです。

の経済状況の中で学生生活を送らなければなりません。四年間、二年間の学生生活が、長いか、短いかは、卒業後を見据えて、皆さんに平等に与えられた時間を有効に使う事が決め手です。北星学園大学の教育目標である「人間性・社会性・国際性」を養いながら、学生生活を謳歌して下さい。

には大人としての責任が求められる。高校時代までは、保護者や学校、社会から、制約と保護がありました。が、大学生になると一変して多方面に亘り、自由と自主性が、大いに重んじられ、同時に自己責任も課せられます。行動範囲も交友関係も大きく広がる中で、社会の仕組みを知り、人間模様を見聞する機会が増えます。多方面に亘る情報が氾濫している現代において、自己本位に物事を判断することなく、大学、短期大学部に入学した目的を忘れずに行動して下さい。

皆さんは、震災からの復興、再生が本格的に始まっている社会的状況、加えて何年も続く超就職氷河期の御協力宜しくお願い致します。



新入生からの言葉 大学生生活にむけて



文学部 英文学科 牧原 未央

北星学園大学に入学して、早くも2週間が経とうとしています。今までの高校生活とは全く違う新しい生活に、日々悪戦苦闘しながらも充実した毎日を送っています。

さらに充実した大学生活を送るため、私はいくつかの目標を立てました。

まず第一に、現代社会にも広く通用するような国際的な視野をもった人間になることです。高校とは違い、生活の多くの部分が自己責任になりました。そのため、しっかりと自分で計画を立て、周囲に流されることなく、目標に向けて強い意志を持ち続けることを大切にしようと思います。

第二に、関心・意欲をもった事柄には積極的に自分で追求していくことです。今までは、自分の具体的な未来像を曖昧なままにしてきてしまいました。私は留学を希望しているのですが、このように自分のやりたい事に集中し、時間を費やすことができるのは、大学生の特権の一つだと私は考えます。ですから、この4年間という大変貴重な時間の中で、本当にやりたい事を見出さねばなりません。また、その為には両親や友人、大学の職員の方など、多くの方の手を借りることになります。私が社会人になったとき、その方々への感謝の気持ちを思い起こすことができるよう、充実した大学生活を送りたいです。



社会福祉学部 福祉計画学科 大角 敏希

北星学園大学に入学して約2週間が経ちました。最初は履修登録の仕方などわからないことだらけでしたが、先輩などに話を聞くなどして、少しずつ学校生活に慣れてきたところです。

入学する以前は大学生活が楽しみという意識しかありませんでした。しかし、オリエンテーションを経て講義を受け始めた今は、今まで以上にやらなきゃいけないという意識を持っています。高校からはガラッと変わった環境。時間割も自分で決めなきゃいけないし、朝早いし、講義も90分で長いし。そして何より「社会に出る」ということがよりリアルなことになってきた

気がします。

私たちの大半は4年後社会に出て働くことになると思います。今までの遅刻ばかり、居眠りばかり、落ち着きがない、そんな自分ではもう通用しません。環境が変化した今だからこそ変わる、変わらなきゃいけないんだと思います。

4年後の自分が今よりもっともっと成長できてることを願っています。北星学園大学を選んだのが成功だったと言えるようになってることを信じています。今までの非日常的だった行動を日常的行動にできるように努力します。全部自分次第。本気出します！

北星学園大学に入学し、約2週間が経ちました。履修登録の作業など、初めは慣れないことばかりで、あっという間に過ぎていきました。最初は大学生活に不安がたくさんありましたが、今では徐々に友達も増え、充実した学校生活を送ることができています。

大学での4年間はあっという間に過ぎてしまうと思います。その短い4年間の中で成し遂げたい目標は、将来自分が何をしたいのか、何をを目指すのかを見つけることです。そのために、自分の視野を多方面に広げることが大切だと思います。そして、いろんなことに興味をもち、その興味をもったことに精一杯取り組んでいきたいです。また、資格などもとり、4年後に後悔しないよう今できることをできる限りこなしたいと思います。

大学に入ることによって高校とは違い、自由になったと思います。それだけ、責任が伴い自己管理をしなければならない立場に立たされています。4年間という限られた時間をどう使うかは自己決定なので、それをしっかり自分で判断し、行動していきたいです。勉強とサークルやバイトのバランスをきちんと保ち、充実した生活を送っていきたくたいです。



経済学部 経済学科 石井 翔太

北星学園大学に入学して2週間あまりがすぎようとしています。新しい環境や友人に囲まれ一日一日が嵐のように過ぎ去っていく中で、毎日充実した日々を送っています。履修登録や授業形態などはじめは戸惑うことがたくさんありましたが、クラスの友達と助け合いだんだんと大学のリズムをつかむこともできてきました。そんな中で私がとてもおどろいたのは、大学の授業などでの英語を使う機会の多さです。正直、入学する前までは英文学科だからといって授業は日本語で外国からの先生も日本語で英語についての授業をすると思っていました。実際に授業を始めてみて、日本語をしゃべってはいけないう授業があったり、説明もすべて英語でという授業があったりと、これが英文学科なんだと実感し、日常の中でたくさんの英語を使えるということにとっても喜びを感じています。そして、もっと英語を話したい！という気持ちでいっぱいです。2年間の短い短大生活の中で、毎日の授業の中でたくさんのことを吸収し、たくさんの人との交流を通して精一杯成長していきたいです。そして友人との交流やサークル活動にも積極的に参加し、2年後の卒業式で、まだ卒業したくない！そう思えるような最高の2年間になればいいなと思います。一日一日を大切にして、“楽しむときはおもいっきり楽しみ、やるときはしっかりやる”を目標にがんばっていきます。



短期大学部 英文学科 柴野 円花

「開学50周年記念公開講座(入場無料)」

第1回～第4回までは定員200名

第1回から第4回までは各回定員200名。第5回目の講演会については、講師の農園によるワインと軽食付の講演会になります。第1回から第4回までの講演会の内、3回出席いただいた方から抽選で100名の方をご招待いたします。当選者にはハガキでご案内を差し上げます。

テーマ「今、私たちの世界を見つめる—北の大地と星と希望と—」(各回時間18:20~19:50・仮称の演題は変更となる場合があります。)

第1回 2012年9月28日(金)

- 演題:「北星」と新渡戸稲造—その国際性に学ぶ
- 講師:土橋信男(北星学園理事長)
- 場所:北星学園大学

第2回 2012年10月5日(金)

- 演題:(仮称)星の世界を眺め、星を見つめる—札幌青少年科学館への招待
- 講師:札幌市青少年科学館天文係職員 様
- 場所:札幌市青少年科学館(プラネタリウム)

第3回 2012年10月12日(金)

- 演題:世界の中の北海道—そのマス・メディアの将来像
- 講師:菊地 寛氏(放送作家・元北星学園大学教授)
- 場所:北星学園大学

第4回 2012年10月19日(金)

- 演題:地方再生の星とならん—市長の挑戦
- 講師:鈴木直道氏(夕張市長)
- 場所:北星学園大学

第5回 2012年11月2日(金)

- 演題:北海道の食の未来を考える—ワインづくりの立場から
- 講師:中澤一行氏・中澤由紀子氏(岩見沢市栗沢町ワイン用ぶどう農園主)
- 場所:北星学園大学

経済法学科長	増田辰良	経営情報学科長	今野喜文	経済学科長	浦野真理子	心理・応用コミュニケーション学科長	高野照司	英文学科長	中村浩	短期大学部長	横山穰	社会福祉学部部長	大原昌明	社会福祉学研究所長	鈴木剛	学生支援委員長	西脇隆二	総合研究センター長	田村信裕	経済学部長	田村信	文学部部長	澤田裕一	文学部研究科長	副学長	学長事務取扱	田村信	スミス・ミッションセンター部長	田村信	組織紹介											
事務局長	樋田繁治郎	広報委員長	演文	キャリアデザインセンター長	松本康一郎	入学試験センター長	中屋晃	国際教育センター長	今川民雄	学生相談センター長	原正衛	国際教育センター長	今川民雄	学生相談センター長	原正衛	学生支援課(修学支援担当課長)	佐々木	学生支援課(教務担当課長)	笠松英雄	学生支援課(学生生活支援担当課長)	竹内慎哉	学生支援課(国際教育担当課長)	川島善孝	学生支援課(実務事務担当課長)	田中正博	学生支援課	桑原大幸	学生支援課	佐々木	財務課長	笠松英雄	人事課長	竹島浩一	総務課長	川原靖彦	企画課長	五十嵐明	事務局長次長(学生支援担当)	佐々木律夫	事務局長次長(管理運営担当)	小笠原稿幸

学術出版の紹介



『京都人が北海道に住みついたワケ』

(2011年7月 共同文化社)

文学部 濱 保久

このたび大学後援会から出版補助をいただき、長年温めていた視座を1冊にまとめ出版することができました。本当にありがとうございました。京生まれ京育ちの私が30年前に来道し、ついには住みついてしまったワケをエッセイ風にまとめた本でございます。旧の典型京都から新の典型北海道にやってきてしばらくは驚きの連続でしたが、北海道には京都と対照的な生活と文化があり、好奇心のみならずその潜在的可能性に魅せられたからこそ私はここに住みつきました。おそらく他にこれほど住みやすい地域はないと思っています。しかし、当たり前過ぎるためなのかその真の魅力に地元の人々やマスコミは案外気がついておりません。そこで、余所者の私の方が、この地の魅力をまとめ伝える役割を果たしやすいのではないかと考えた次第です。

本の中では生活体験から生まれた疑問を観察、実験、インタビュー、フィールド調査などによって明らかにし、その原因や背景を比較文化論的に考察しています。内容は冠婚葬祭、日常生活、アウトドア、スポーツ、つき合い、接客など多岐に渡っていますが、つまるところ北海道の最大の魅力は気楽さ、すなわちいい意味でのアバウトさ、ゆるい加減さであります。まだまだすべてが流動的で固まりきっていないからこそ許されることがいっぱいあるのです。型にはめられない、なんでもありの精神と自由が北海道には無限にあることを再確認していただければ幸いです。



『ペダゴジーの探究』

—教育の思想を鍛える十四章—

(2012年3月 響文社)

文学部 鈴木 剛

本書の序章に私は次のように書きました。

「2011年3月11日の大震災以降、「子どもをどうするか？」という社会意識は、より切実で深刻なものとなった。それは、わたしたちが従来感じてきたことのない危機意識を伴っている。今改めて、世代としての「子ども（期）」の特別な意味が再発見されようとしている。」

書名の「ペダゴジーの探究」には、このような意図が込めてあります。pedagogy(英語)・pédagogie(仏語)は「教育学」を指しますが、本書は子どもと大人社会との関係のあり方、「世代間コミュニケーション」について論じたものです。教育のあれもこれもではなく、「子ども世代をどうするか」という一点で「教育の思想」を考えよう、そう思ってこの本を書き上げました。

さて本の内容の柱には、ルソーの思想が据えられていますが、今年2012年(6月28日)はルソー生誕300年に当たります。『エミール』と『社会契約論』の出版から250年でもあります。全14章の内の何章かにはエピグラフ(巻頭辞)としてルソーの言葉を紹介しましたので、ぜひ味わって頂きたいと思います。また、第7章の巻頭では教師・宮沢賢治に登場してもらいました。賢治は「農」という字を黒板に書いて生徒に面白いことを語っています。ぜひご覧ください。なお、本書には自作の版画を使わせて頂きました。

大学後援会のご助力なしには、本書の出版は叶わなかったはずですが、最後になりましたが、この場をお借りして北星学園大学後援会に心よりお礼申し上げます。

◆ご相談ください◆

～学費納入について～

授業料等学費につきましては、毎年、期限までの納入をお願いしているところですが、学費に関する諸制度についてお知らせいたします。

詳細は今年度のキャンパスガイド四十二頁、及び大学公式ホームページ(<http://www.hokusei.ac.jp/>)
↓「保護者の方へ」↓「学生生活」
↓「学費に関するQ&A」をご覧ください。

■各種減免制度

○兄弟姉妹等同時在学減免

兄弟・姉妹等で同時に二名以上が一年を通じて在学されている場合、そのうちお一人以外の方の「教育充実費」及び「後援会費」を全額免除いたします。願い出にあたっては、戸籍謄本の添付をお願いしております。財務課までお申し出ください。

○身体・精神障害者減免

学部、大学院又は短期大学の学生で身体障害者手帳もしくは精神障害者手帳をお持ちの場合は「教育充実費」の二分の一を免除いたします。財務課までお申し出ください。

○修学困難者減免

学費負担者(主として家計を支えている者)の死亡・病気・自己都合以外の理由での失職(解雇・倒産等)や災害等により経済的に修学が困難になった学部又は短期大学の学生に対する減免制度です。それぞれの状況により条件が異なりますので、学生支援課までご相談ください。

■学費延納制度

万が一、期限までの納入が困難な場合は、学費等延納制度により納入期限を延伸することが可能です。財務課までご相談ください。

入学式開催

四月五日の午後一時より、二〇一二年度の入学式がニトリ文化ホールで開催されました。当日は気持ちの良い青空が広がる中、ご父母の方々も多数出席してくださいました。そのなかで、短大部と大学四学部、大学院を含めた新入生総数約一、二〇〇名が、緊張した面持ちで晴れの日を迎えました。式はオルガンの前奏によって幕を上げ、一同による讚美歌「いつくしみ深き」の合唱の後、チャプレンが聖書を読み上げ、祈禱を奉げました。次に、学長事務取扱の式辞があり、学園長から祝辞が贈られ、在学生代表から歓迎の言葉がありました。そして、大学院・大学・短期大学の各新入生代表から、それぞれ誓いの言葉が述べられました。その後、吹奏楽部とチャペル・クワイアが、谷川俊太郎氏作詞の学歌を披露し、再び一同で讚美歌「さあ、共に生きよう」を合唱しました。最後は、チャ



後援会からのプレゼント

卒業生へ

新入生へ

後援会では、毎年卒業生、新入生の皆さんに記念品を贈呈しております。2011年度の卒業生には、卒業記念PHOTOBOOKをお贈りいたしました。ゼミ、クラス、サークル集合写真を中心に掲載し、卒業後も母校に対する関心と愛着を持っていただくツールとして制作いたしました。また、新入生にはソーラー携帯充電器をお贈りいたしました。災害時に携帯電話の電池が切れた、充電用アダプターがあっても電気がつながらないなど、このような時にご活用下さい。また、充電器本体には、校章がデザインされています。校章の形はライラックの花びらをシンボリックに表現しており、星のまわりの5つの矢印は、本学の教育方針である人間性、社会性、国際性、そして希望と発展を意味しています。校章にこめられた意味を理解していただき、より充実した大学生活を送っていただけるよう願っております。

式を終えた新入生達はほっとした様子で、ご父母の方と楽しそうに会話をする姿、会場の前で記念撮影をする姿、先輩達のサークルの勧誘に明るい表情で応える姿が数多く見られました。その表情には、これから始まる北星学園大学での生活に対する、大きな希望が満ちていました。大学生活の中にはたくさん可能性が広がっていることと思えます。自らの可

2012年度 行事予定

4月	2日(月) オリエンテーション(～6日)	6月	23日(土) 第1回札幌地区父母懇談会 (3・4年次、短大2年次対象)	10月	6日(土) 大学祭(～9日)
	5日(木) 入学式	7月	30日(月) 前期授業終了	27日(土) 第2回札幌地区父母懇談会(全学年対象)	31日(水) 宗教改革記念講演会
	定期健康診断(～7日)	8月	31日(火) 前期定期試験(～8月8日)	1日(土) 『後援会だより』第111号発行	14日(金) クリスマス礼拝
5月	7日(土) web履修登録開始(～11日)	9月	1日(水) 『後援会だより』第110号発行	12月	21日(金) 年末授業最終日
	9日(月) 前期授業開始		25日(土) 函館地区父母懇談会	17日(木) 後援会第2回役員会	21日(月) 後期授業終了
	2日(水) 学園創立記念日(授業日)		26日(日) 苫小牧地区父母懇談会	23日(水) 後期定期試験開始(～31日)	4日(月) 卒業生名簿発表
6月	7日(月) スミス・ミッション週間(～12日)	10月	1日(土) 旭川地区父母懇談会	14日(木) 卒業礼拝	『後援会だより』第112号発行
	25日(金) 後援会第1回役員会		2日(日) 北見地区父母懇談会	15日(金) 卒業式	
	1日(金) 『後援会だより』第109号発行		8日(土) 釧路地区父母懇談会 帯広地区父母懇談会		

今年度の地区別父母懇談会は下記の日程で計画しております。懇談会では、大学の情報や、学生の修学状況等についての説明、昼食を取りながらの父母同士の懇談、個別に学生の修学状況(単位修得、学生生活状況、及び就職関係の相談など)ができる個別懇談を実施いたします。

履修している授業科目等がわかる「履修登録票」や「授業科目別出席状況」、前年度までの修得単位数とその評価がわかる「成績通知票」などを個別にご用意して、それに基づいて担当教員より説明を聞くことができます。毎年参加された皆様から大変好評を頂いております。(ただし、個人情報保護に関する法律により、成人となった学生本人が所定の手続

2012年度

地区別父母懇談会のお知らせ

きにより同意しない旨申し出た場合は、修得単位数等、修学状況に関する情報を保証人にお伝えすることができないこともありますので、あらかじめご了承願います。

地区別父母懇談会は北星学園大学後援会の事業の一環で、皆様からの会費により運営しております。多くの会員の皆様のご参加をお待ち申し上げております。

詳細につきましては、六月下旬に別途ご案内させていただきます。また、先に三・四年次(短期大学部)については二年次のご父母にご案内いたしました六月二十三日(土)札幌での懇談会につきましては、締切(六月四日)が近づいておりますので参加ご希望の方はお忘れなくお申込み願います。

6月23日(土)	札幌会場	北星学園大学校舎(3・4年次、短期大学部2年次対象)
8月25日(土)	函館会場	函館国際ホテル
8月26日(日)	苫小牧会場	グランドホテルニュー王子
9月1日(土)	旭川会場	旭川グランドホテル
9月2日(日)	北見会場	ホテル黒部
9月8日(土)	釧路会場	釧路プリンスホテル
9月8日(土)	帯広会場	帯広東急イン
10月27日(土)	札幌会場	北星学園大学校舎(全学年対象)

前回号でお知らせした六月二日(土)に大学校内にて行われる、北星学園大学後援会総会・懇親会のご案内を申し上げます。総会では後援会事業活動における二〇一一年度活動報告・決算や、二〇一二年度の活動方針等の審議が行われ、終了後には父母向け就職講演会の開催を予定しております。今年度は、株式会社ジェイ・ブロード北海道支社長を務める前田健郎氏をお招きしてお話をさせていただきます。採用コンサルタントとして幅広く活躍されている前田氏について、ご紹介をさせていただきます。

お子様がこの先どのように就職活動を行っていくべきなのか、不安や興味を持たれているご父母の方も多いと思われ、ぜひこの機会に大学に足をお運びください。

2012年度 総会・懇親会での就職講演会のご案内

「データから見る就職事情と企業動向」

企業が求める能力とは

ご父母の皆様が就職活動を行った時代には「就職協定」なるものが存在し、ある程度の活動目安がありました。その協定が廃止になり、十五年近く経ちます。

その影響からか、近年の就職活動は非常に早期化かつ複雑化しています。現在の最新就職事情をデータから分析し、今のシチュエーションとは何かをお伝えします。

又、採用側(企業側)の立場から、今の学生気質や求める人物像を報告し、皆さんと一緒にどの様なフオローが必要かを考えたいと思います。



現職：株式会社ジェイ・ブロード北海道支社長
前田 健郎 (まえだ たけお)
企業向け採用コンサルタントとして、これまで北海道内約350社を担当。また2006年より就活生のコミュニティスペース・JOB★STA1.3Cafe(イチサンカフェ)を立ち上げる。現在は各大学・専門学校での就職ガイダンス講師、就職アドバイザー、キャリア科目担当としても活動。

ホストファミリー

短期宿泊プログラム協力ファミリー

大募集!

北星学園大学では交換留学生のホストファミリーを募集しております。受け入れていただくのはアメリカからの留学生ですが、英語は必ずしも条件ではありません。受け入れ期間は1学期(15週間)で、その間の食住費として一定額の補助をさせていただきます。多くの留学生が日本で一番印象に残った体験としてホームステイを挙げています。ホストファミリーとして登録していただきますと、春と秋に受け入れについての照会を大学からさせていただきます。ご都合の良い場合には受け入れをお願いするというシステムになっています。また、イギリス、カナダ、韓国、台湾、中国とも交換留学しており、これらの交換留学生については、例えば、1泊2日などの宿泊体験プログラムを実施していますので、ご協力いただける場合も募集しております。

皆様のご家庭でも留学生を迎えて国際交流をしてみませんか?
本学のホームページから国際教育センターのサイトもご覧いただけます。ご協力をお願いいたします。

お問い合わせは下記のところまで・・・

北星学園大学 学生支援課 国際教育係
電話(代表)：(011)891-2731 FAX：(011)895-2500
ホームページ：http://www.hokusei.ac.jp./kokusai/

あしがき

北海道にもようやく初夏の訪れを感じられる季節がやってまいりました。新入生たちも大学生活に慣れてきたようでも、活気あふれる学生達でキャンパスは華やいています。さて、六月二日(土)の後援会総会が、六月二十三日には札幌地区父母懇談会が本学にて開催されます。総会では、施

設見学や父母向け就職講演会も予定しております。また、第一回札幌地区父母懇談会ももちろん、夏からの地区別父母懇談会の方も皆様に満足していただけるよう、準備を進めております。今年度も多くの会員の皆様にお会いできることを楽しみにしております。
(後援会事務局 大野)

北星学園大学 教育振興寄付金ご芳名

募金のご協力に深く感謝申し上げます。

二〇一二年五月一日から二〇一二年四月三十日まで (敬称略)

- ☆大学・短期大学部
- | | | |
|-------|-------|-------|
| 馬場 信吾 | 村上 倫子 | 湯川 環子 |
| 宮本真理子 | 鈴木真知子 | 斧 良彦 |
| 酒井 玲子 | 平賀 明子 | 山下 克彦 |
| 藤森富士雄 | | |
- (父母・同窓生・一般・理事・教職員・元教職員)